

内閣の外交方針に關しては阿部は宇垣と密接なる關係にあるを以て宇垣の政策を實行する可能性がある。宇垣は外相時代に第三國との協調に依り日本の立場を維持し英米及ソビエトロシアさへも提携して國際關係を調節せんとした。

内閣情報部九・二

情報第三號

○貴陽支那語放送 (八月三十日)

(關東遞信官署遞信局轉取)

「平沼瓦解後日本外交の動向」

平沼内閣が遂に瓦解して仕舞つた。瓦解後に於ける日本外交の動向に就いて述べよう大體に於て日本は明治維新後極力其の外交方策を擴張し僥倖なる成功を爲し得た日露戦争より歐洲戦争に至る間は遠交近攻の政策の下に一方は英國の奴隸となりて漁夫の利を喰つていた今回は日本が世界を相手とし世界の公敵となり所謂東亞新秩序建設に適應した興亞外交を執行しつつあるが其れには英米を排出しソ聯を迫出す一方獨逸と伊太利を利用して其の目的を達せんと努めたがこの策謀は孰れも五相會議により產出したのである。ヒットラーと云ふ男は決して阿呆ではなく人に利用されるものではない獨逸の今回の舉動は主に對英なるが又日本に恥を擡かすのである。今後日本外交の進むべき進路は既に末路に到達した今更英米を拉致しても恐らく英米は其の手に乗るまい。何となれば英米は民主國家であつて日本は軍閥專政ファシスト的である。英米と一緒になる理屈が立たない。殊にアメリカの方針としてワシントン合衆社の報道に依れば極東に於ては中國をして如何なる國家の支離をも受けさせたくない」と表明してゐる現狀にある。

日本は侵略行爲を英米を排出する行爲と併行し今に其の手段を抛棄せざるに於ては英米との合作は根本的に不可能となる日本の外交は如何なる道程を辿るか判らないが英米を拉致することは決して出来ない故に日本の外交は行詰つたと云ふのである。内政にも變亂を惹起する虞が多分にある國內の和平の維持も困難とならう。平沼内閣は内外の事情に揆察されて一進も二進も出来ず今回獨ソ同盟を契機として總辭職したのである。侵略戦の延長により國民より怨嗟を買ひ始めて他國に出兵して侵略するものではなかつたと悟つた節もある。敵の内部の組織は益々紛亂を辿りつつあり吾が二ケ年の英雄的抗戦により敵は愈々末路に迫つた阿部大將の組閣が發表されたが大體阿部大將は軍部中の穩健派と稱せられ敵は軍中の穩健派の人物を以て英米を拉致せんとする魂膽に間違はないが英米は其の手に乗らないであらう。

國際環境は吾々に有利に傾きつつある今日抗戦二ケ年の罪は愈々日本の額に加はりつつある。



内閣情報部九・三 情報第四號

成都中央通信社新聞電報放送（八月三十一日）

重慶報

（臺灣總督府交通局遞信部聴取）

軍政部長何應欽は最近三ヶ月間に於ける戦況を各方面より觀察したる結果日本は漸次敗北への一路を辿りつゝありと前提して次の如く語つた。

軍事上の見地より觀て日本は次第に疲弊の色を露し特に漢口攻略戦以後彼の攻撃は著しく劣勢となつた、其理由としては第一、日本が精銳を誇る現役兵の大多數が長期に亘る戦争の爲既に喪はれた結果素質に於て格段に劣弱なる豫後備兵を召集して缺員を補充せること、第二、戦線の擴大に伴ひ各占領地に多數の守備兵を駐屯せしむる必要を生じ従つて大部隊を攻撃の第一線に配置し得ざること、第三、將兵の意氣鎮沈し反戦氣分を生ぜしこと等である又日本は他國との外交的折衝に於て常に誠意を缺ける爲國際的に孤立の地位に陥つたのみならず近來軍隊内に於ける軍律の弛緩は特に顯著である。

東京に於ける日英會談が停頓して三日を経たる本月十六日英租借地九龍の西方、南頭へ上陸した約千名の日本軍は上陸後直に深圳の方向へ前進して同日午後早くも同市を攻略